人間文化研究機構連携展示

チベット
ポン教の神がみ

2010年 7月2日[金]—9月10日[金] 会場：国文学研究資料館
（〒190-0014 東京都立川市緑町10-3）

開館時間｜午前10時～午後4時30分　休館日｜日曜日　入場無料

主催／人間文化研究機構、国文学研究資料館、国立民族学博物館

人間文化研究機構
連携展示

チベット ポン教の神がみ

ポン（Ｂｏｎ）教は中国のチベット自治区全域、四川省、甘粛省、青海省、雲南省からヒマラヤ南麓にまで広く分布している宗教で、仏教がチベットにもたらされ、政権と結びつく前まではその地域の主流をしめていました。土着的要素と密接な関連を保ちながら、独自の高度な教理体系を築きあげ、少数派ながらいまも宗教集団として生きつづけています。チベット仏教の哲学・儀礼の随所にポン教からの影響が認められます。また、古いポン教徒はシャンシュン語という未だその系統も文法も明らかにされていない言語をもちいていました。この言語はチベット文語の成立に重大な影響を及ぼしたはずであると推測されます。このように、ポン教はさまざまな面で、チベットの文化基盤を代表する宗教であり、その地域を理解するうえで不可欠の要素といえるでしょう。

本展示では、ポン教が築きあげてきた宗教的宇宙の構造の一部を図像資料によって紹介するとともに、ポン教の歴史や現代における分布、儀礼なども紹介します。これによってチベットの基層文化に関する理解を少しでも深めていただければ幸いです。

【関連企画のご案内】

◆第94回
「国立民族学博物館友の会」東京講演会
日　時＝7月19日（月・祝）　14時～15時15分（13時半開場）
演　題＝チベット　ポン教とは何か
講　師＝長野泰彦（国立民族学博物館教授）
ポン教は、仏教伝来以前からチベット文化域に広く分布している宗教で、チベット精神文化の基層を形成しています。ポン教の歴史や仏教との関連、現代におけるポン教の実態とポン教研究の意義についてお話しします。
会　場＝国文学研究資料館　大会議室
定　員＝２００名（要予約）
参加費＝「国立民族学博物館友の会」会員＝無料／一般＝５００円
主　催＝財団法人千里文化財団
協　力＝国立民族学博物館、国文学研究資料館
※参加についてのお問い合わせ
財団法人千里文化財団「国立民族学博物館友の会」係
電話＝０６－６８７７－８８９３

国文学研究資料館

National Institute of Japanese Literature
ＴＥＬ＝０５０-５５３３-２９００（代表）

国文学研究資料館は、文献資料の調査研究、収集、整理および保存等を目的として、昭和47年（１９７２）に設置されました。以来、大学等の研究者の協力を得ながら、国内外に所在する日本文学およびその周辺の資料について調査し、マイクロフィルム等による収集を行い、保存に努めています。また、集積した資料や情報は、広く研究者および一般利用者に提供しています。

同時に、調査、収集した膨大な書誌情報を活用し、大学等の研究者と連携して、多面的な共同研究を企画、実施しています。また、海外の研究機関、研究者との交流にも積極的に取り組んでいます。

【開館時間】午前10時～午後４時30分
【休 館 日】日曜日　　入場無料

【交通案内】
◉多摩都市モノレール「高松駅」から徒歩7分
◉立川バス JR立川駅①番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車3分
◉立川バス JR立川駅北口②番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車3分